

大妻女大政 松山 容子 ○深田 順子

目的 体表面展開図は衣服の基本的な形態を表わすと考えることができ、その形態的特性を把握することは、衣服の設計において重要である。われわれは、立体裁断法により体表面の近似的展開図(体表コピー)を採取したが、個々の展開図からは からだつきの個性を表わす多くの情報を得ることができる。ところで、集団の体型を類型的に把握するには これらを幾つかの有効な情報に要約する必要がある。要約のためには 主成分分析法がしばしば用いられるが、同法においては 解析に用いる項目の構成が 結果に対して大きな影響を及ぼすので、その選択は慎重に行なわなければならぬ。そこで、本報では 体表コピー上より測定した項目のうちから、からだつきの特徴をよく表わし、且つ、主成分分析法に適する項目を選び出すために、2, 3の検討を試みた。

方法及び結果 大学女子学生105名を対象とし、静立姿勢における胸部について、体表コピーを採取した。得られた体表コピーの右半身について、図形としての特性を表わし、また、衣服設計において意味のあると思われる70項目を選び測定を行なった。次いで、70項目相互の相関係数を算出すると、各項目は互いに何らかの相関性を示した。70項目それぞれについて、係数の値から他項目との相関関係における傾向を検討した。また、項目の取捨選択を行なって主成分分析を行ない、項目の構成による因子負荷量の変化について検討した。その結果により、対象とした体表面形態を主成分分析法により解析するための項目群(37項目)を選定した。